

特集 教えて、サッコ先生！ 包括的性教育ってなに？



7 性被害から子どもを守る！ ～知っておきたい「暴力定規」～

ソーシャルワーカー養成校・研究所 AFRIS 理事（パリ市） 安發明子

フランスの「愛とコミュニケーションと性のある人生についての教育」の内容と、子どもたちのウェルビーイングを支える取り組みについて紹介します。

NOと言えることで
自分にとってのYESが
わかるようになる

フランスのパリ市は暴力定規（図1）をすべての中学生と高校生に配布しています。身近なところに暴力定規があることで、子どもが話題にできるようにしています。ほかにも「暴力被害に気付きケアする」という冊子などもあります。グループに対し情報提供するよりも、きっかけをたくさんつくり、そのたびにしっかりと1対1で話す機会をたびたびつくることを大事にしています。性被害予防と性教育がつなげて語られることがあります。知識があることのみならず、「自分の意思が小さいときから尊重されてきた」という一貫性が重要です。常に大人に従わってきた子どもが突然、性についてだ



図1 暴力定規（日本語訳版）

著者プロフィール フランス子ども家庭福祉研究者。1981年鹿児島生まれ。生活保護ワーカーを経て2011年渡仏。著書に『一人ひとりに届ける福祉が支えるフランスの子どもの育ちと家族』（かもがわ出版、2023）、訳書『NO！と言えるようになるための絵本』（ゆまに書房、2025）など。【HP:akikoawa.com】

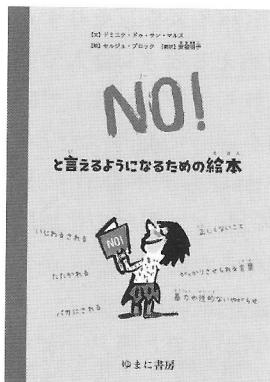
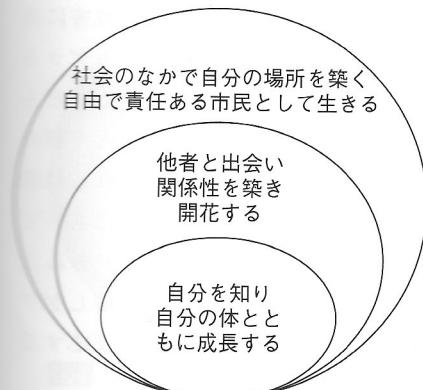


図3 『NOと言えるようになるための絵本』

[ドミニク・ドゥ・サン・マルス(文), 安發明子(翻訳): NOと言えるようになるための絵本. ゆまに書房, 2025]

け拒否することは難しいです。自分がどう感じているか考え伝える訓練ができていて、自分のことを他人が決めたり、自分の気持ちを勝手に決めつけられたりすることを拒否できる自信があることが大事です。自尊心の低さなど脆弱さがあると暴力の対象になるので、敏感に子どもたちの状況に気づきケアをすることは必要不可欠です。

性教育は、フランスでは「美しい人生を生きるために力を育てる」と表現されます。教育省が示す図2を見ると、関係性、そして社会の中で居心地よく生きることにつながる自分のウェルビーイングを育てる方法であることがわかります。名称も「愛とコミュニケーションと性のある人生についての教育」です。性教育の時間に子どもたちは関係性について話すことが多く、大事にされているのは、性とコミュニケーションと愛は人生にとって大切なこ

となので専門職と話すことができる機会にしています。性教育の機会に、すべての子どもに頼れる話せる大人がいるか確認します。すべての大人が子どもと話題にしてタブーではない状況にしておけば、自分で考える習慣が身につき、大人に相談ができるという考え方です。そのため、性教育のときに気になる子どもを見つけ、学校が地域で頼りになる人をつくる。インターネットで調べるよりも、大切なことは信頼できる大人に相談する習慣をつくろうとしています。子どもたちがどのように自分自身を築きたいか、話せるようにしています。

また、子どもが自分で選べるようになることを大切にしています。アタッチメントのゴールはNOと言えることです(図3)。安定した人間関

係が築けるようになればNOと言えるようになります。NOと言えるようになれば、自分のYESが何か判断できるようになります。自分がいきいきと過ごせるようになる場所がどこなのか、自分で選べるようになります。好かれなくても嫌われてもいいからNOと言えること、日常や教育のなかでも選択肢があり、NOと言える環境があること。「調子が悪い」「うまくいかない」と言うことができ、それが聞いてもらえる環境を保障することは最低限必要です。フランスで教育(education)という言葉は学習(scolaire)とは区別され、社会内で活動するために必要な知識と実践の習得、生きるためのノウハウを指します。つまり、教育とはコミュニケーションができることや社会の中で気持ちよく過ごせる居場所を自分で見つけられるよう支えることなのです。

子どもたちのウェルビーイングを守る小児科医

性教育は保健センターの下部組織である性的健康センターのパートナー間アドバイザーがおもに行うので、子どもたちは必要なときに会いに行くことができますが、子どもたち全員が通うとは限りません。だからこそ、かぜなどの機会であっても小児科医やかかりつけ医がいかに子どもたちの心理的不調などのニーズをキャッチしていくかが重視されて

比如，既让暴力得以实施的被害人自己，也需要为他人提供必要的帮助和支持。对于那些因家庭暴力而受伤的被害人，医护人员应根据具体情况给予适当的治疗和护理。对于那些因家庭暴力而造成心理创伤的被害人，医护人员应提供必要的心理咨询和支持。同时，医护人员还应关注家庭暴力的预防工作，通过宣传、教育等方式提高公众对家庭暴力的认识，促进家庭和谐稳定。

（二）性别平等与性健康教育

在家庭暴力防治工作中，性别平等与性健康教育是两个重要方面。一方面，性别平等强调男女平等，反对任何形式的家庭暴力，倡导尊重女性、保护女性的合法权益。另一方面，性健康教育则强调尊重个人的性权利，反对任何形式的性侵犯，倡导健康的性观念。这两方面的教育相结合，可以有效预防家庭暴力的发生。

問題の発生と行動

（一）医疗保健服务中的问题

在医疗保健服务中，存在一些可能导致家庭暴力的因素。例如，医护人员在治疗过程中可能因为患者的身体状况或治疗效果不佳而产生负面情绪，进而将这些情绪发泄到患者身上；或者因为患者对治疗方案有异议而产生冲突，进而引发家庭矛盾。此外，医护人员在诊疗过程中可能因为患者的文化程度较低或沟通能力较弱而产生误解，进而引发家庭矛盾。因此，医护人员在提供医疗服务时应注意保持良好的沟通技巧，尊重患者的知情权和选择权，避免因沟通不畅而引发家庭矛盾。

（二）社会文化背景下的问题

在社会文化背景下，存在一些可能导致家庭暴力的因素。例如，在一些传统的社会文化中，存在着男尊女卑、重男轻女等观念，这些观念可能会影响家庭成员之间的关系，导致家庭暴力的发生。此外，在一些经济条件较差的地区，可能存在较高的家庭贫困率，这可能与家庭暴力的发生率呈正相关。因此，社会各界应共同努力，改变传统的社会文化观念，促进家庭和谐稳定，减少家庭暴力的发生。

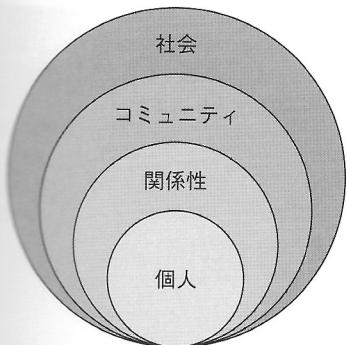


図4 子どもをケアする際に念頭におくこと

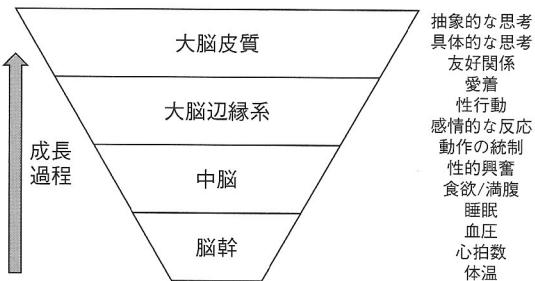


図5 脳の成長過程

[ブルース・ペリー、他(著)、仁木めぐみ(訳):犬として育てられた少年。紀伊國屋書店、2010]

一般に、未成年のうちに性被害にあったことのある人は12.7%といわれています。性被害に遭った子どもの自殺願望の高さとの関係は有意です(連帯保健省、2022)。予防は専門職の養成から、そして、個別に話し合い一緒に考える機会をもつという工夫をフランスでは重視しています。

最初の1,000日

WHOが掲げた妊娠期から2歳までの環境が重要であるという方針について各国で具体的に取り組まれていますが、フランスでも妊娠4か月までに妊婦の社会面、心理面の確認を義務づけるなど積極的な取り組みがなされています。子どもは環境に適応して行動をとります。つまり、教育によって調整はしていくますが、早く対応することが非常に大事です。

脳科学者 Arnaud Cachiaによる説

明を引用します。

「脳は社会や経験によって形成され、子どもは環境との相互作用の中で行動を学びます。

最も効果的だった行動が強化され、遺伝や個性よりも教育や関係性が子どもの成長に影響を与えます。理想的でない行動の背景にはストレスや暴力被害経験、睡眠不足などがあるのです。

つまり、問題行動とされるような行動があったとしたら、それは生きるために戦略であり、子どもからのSOSなのです。禁止ではなく、環境を整えることが必要です。図5のように脳は脳幹から順につくられ、徐々に複雑な思考をする分野が築かれます。特に妊娠中から2歳までの間は14cmも脳がつくられるので、その時期にダメージを受けると感情や関係性など重要な部分に影響します。」

それゆえ、妊娠中からケアを十分に行い、出産後に調子の悪い赤ちゃんは家に帰しません。調子の悪い赤

ちゃんは見慣れていないと見落とすことがあるので、確認するためのリストがあります(日本語訳あり)。

性被害から子どもを守るにあたって、子どもの育ちをみなで支えるための知識の共有、そもそも子どもが発言し聞いてもらえる機会と文化をつくることなど、同時に取り組んでいく必要があります。

暴力定規は、他にもさまざまあるツールのひとつですが、パリ市が中高生に配っているもので、日常の中であちこちで目にします。教育というと「教える」イメージの強い日本ですが、人によって必要とするものも、タイミングも違うので、子どもたちの生活の中に大事なツールを置いておき、子どもが必要なタイミングで大人に話題にできるようにしています。図1のQRコードから見ていただけするとわかるように、日本の現場でも利用できそうなツールの翻訳と共有に取り組んでいます。この夏に東京で開催する性暴力の研修前には、「問題のある性行動」

